

令和6年度 上山小学校 学校自己評価報告書

No.	評価項目	児童	保護者	教職員	関係者	平均	評価
1	児： 学校は楽しい。 保： 学校は、学校の指導方針が理解できるよう努めている。 教： 学校(教職員)は、児童が安全に生活できるよう気を配り、施設など教育環境の整備に努めている。	3.5	3.4	3.7	3.9	3.6	A
2	児： あぶないあそびはしていない。 保： 学校は、児童が安全に生活できるよう気を配り、施設など教育環境の整備に努めている。 教： 学校(教職員)は、児童が安全に生活できるよう気を配り、施設など教育環境の整備に努めている。	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	A
3	児： ともだちにはやさしくしようとしている。 保： 学校は、命の大切さや思いやりの心を育てようと努めている。 教： 学校(教職員)は、命の大切さや思いやりの心を育てようと努めている。	3.6	3.5	3.9	3.9	3.7	A
4	児： 学校の勉強はわかる。 保： 学校は、わかりやすい授業を行い、子どもにあった指導に努めている。 教： 学校(教職員)は、わかりやすい授業を行い、子どもにあった指導に努めている。	3.4	3.4	3.7	3.6	3.5	B
5	児： 先生は、ぼくの(わたしの)話をきいてくれたり、そだんにのってくれたりしてくれる。 保： 学校は、保護者の質問や相談にきちんと対応している。 教： 学校(教職員)は、保護者に質問や相談にきちんと対応している。	3.6	3.4	3.9	3.8	3.7	A
6	児： 学校行事(運動会や遠足など)はすきで、楽しんでいる。 保： 学校は子どもたちが学校生活を楽しく有意義におくることができるよう努めている。 教： 学校(教職員)は、子どもたちが学校生活を楽しく有意義におくることができるよう努めている。	3.6	3.5	3.9	3.9	3.7	A
7	児： ともだちをいじめたり、こまらせたりしていない。 保： 学校は、いじめ防止に向けて、努力している。 教： 学校(教職員)は、いじめ防止に向けて、努力している。	3.6	3.2	3.9	3.5	3.6	A
8	児： かぜなど病気にならないように体をきたえたり、けんこうに気をつけている。 保： 学校は、子どもの健康に留意し、体力向上に努めている。 教： 学校(教職員)は、子どもの健康に留意し、体力向上に努めている。	3.3	3.3	3.5	3.9	3.5	B
9	児： おうちの人と学校の話をよくする。 保： 学校は、各種お便り、ホームページ等で学校の情報をわかりやすく公開している。 教： 学校(教職員)は、各種お便り、ホームページ等で学校の情報をわかりやすく公開している。	3.4	3.6	3.8	3.6	3.6	A
10	児： 育友会やちいきのぎょうじにさんかしている。 保： 学校は、育友会や地域の団体と連携、協力して子どもの教育に努めている。 教： 学校(教職員)は、育友会や地域の団体と連携、協力して子どもの教育に努めている。	2.5	3.5	3.3	3.7	3.3	B

※3.6 (90%) 以上：A 3.2～3.5 (80～90%)：B 3.2 (80%) 以下：C

黄・・・前年度比アップ 青・・・前年度比ダウン

■自己評価のまとめ(分析・課題・対策等)

○今年度は、昨年度と比べてABCの最終評価に6項目で向上が見られた。最終評価では下がった項目はなく、教育活動全体が向上し、学校の信頼度が高まっていると言える。

○本年度から学校関係者評価を平均に加えている。児童、保護者、教職員、学校関係者の4者の平均によって最終評価を判断している。

○評価者別にみると、保護者では全10項目、地域の学校関係者でも8項目で評価が向上している。特に項目1では全評価者で向上していることから、「スマイル上山」の合言葉や自信・挑戦・思いやり等の具体的な取組によって児童の成長が実感できるものとなってきたと考えられる。3学期は、「ありがとう上山」を合言葉に、「スマイル上山」の完成に取り組んでいる。

○項目4の学習について、児童と学校関係者では評価が下がっている。6年生の全国学力・学習状況調査や5年生の長崎県学力調査では、全教科で全国平均を上回っており、全体的に高水準である。しかし、学力が伸び悩む児童との二極化の実態があり、学年が上がるにつれて差が大きくなっている。このことが、児童6名が1(全く当てはまらない)の評価、27名が2(あまり当てはまらない)を選択したことに表れている。個別指導の充実やさらに「わかる授業」への改善を進めていく必要がある。12月に実施した諫早市標準学力テスト(2～6年生 国語・算数)では、市の平均を上回り、全国平均以上の結果となっている。

○健康面では、通常の教育活動ができるようになっているが、換気など、コロナやインフルエンザ等の感染症対策を継続している。体力面では、家庭でのゲーム等メディア利用の普及、登下校時の車による送迎、校内で持久走大会、長縄大会の実施を取りやめたことが児童の評価が下がっている要因と考えられる。地域で人の迷惑にならない外遊びの仕方を指導したり、昼休みに児童が体を動かしたくなるような企画や環境づくりを進めていく必要がある。

○項目10の育友会、地域行事への参加については、昨年度の最終評価CからBに向上したものの、児童や教職員では10項目中最も評価が低く、しかも前年度を下回っている。最も大きな課題であると言える。社会体育や習い事が盛んであること、家族単位で過ごす機会が増えていること、ゲームを含むメディアに接する習慣が定着していること等が考えられる。学校のみならず、地域全体の課題であるとしてとらえている。令和7年度からのコミュニティスクール化を機会に、地域との協働活動を通して、学校としての役割を果たしていきたい。